

+ (平成17年度城北会懇親総会)

実行委員長総括

2005.7.23 実行委員長 江森民夫

1 はじめに

実行委員会、そして城北会のあらゆる学年の努力によって内容としても充実した懇親総会となりました。

総会参加者も約500名の参加者登録を得ましたが、結局当日出席は445名ということで多少残念な面があります。また40年卒と45年卒はこれに続いて独自の学年会を開催し充実した交流を得ることができました。

全体としては大成功であると自慢することが許されると思います。

実行委員会終了後数日間はメールが飛び交いました。その中で実行委員どうしがお互いの努力を評価し喜びあうもので、充実感で満たされていました。

お互いの努力をかみしめるとともにこの成果を今後どう生かすか、皆で考えて行きたいと思えます。

2 大成功の総会

総会の内容は、参加した皆がお互いに同窓生としての連帯感をもつことができ、また和やかな時間を過ごすことができたもので、大成功であったと思います。

実行委員長の挨拶を述べましたが、和やかな時間がもてただけでなく、参加者がそれぞれ何かを得ること(感じること)ができた懇親総会となったといえます。

以下いくつかのメッセージを紹介します。

(1)ある知り合いの卒業生(昭和40年代卒)は次のようなメッセージをくれました。

野田さんの澄んだ歌声、校歌、同じ場で学んだ私たち。「来年も、城北会に参加しようかしら……」懐かしい時空間。予想以上にすてきな会でした。

(2)また大先輩からは次のメールがきています。

早速お礼のメールをいただき、かえって恐縮しました。私が感心した点をいくつか上げれば、

1)いきなりミュージックでスタートしたこと。本当に斬新な開会で、会場の雰囲気もすっかり和やかになりました。特に自然に合唱に誘い込んだのは見事でした。これで、出席者間の一体感も生まれたと思います。

2)メインイベントのビデオも、力作でした。画像が多少不鮮明でも、制作の意図は十分伝わり、また見る人それぞれに楽しめたでしょう。恩師へのインタビューも、よかったと思います。特に90歳と80歳の先生の登場は印象的でした。先生の答えにも、巧まざるユーモアもあり、なかなかのものでした。など、あげればきりがありません。

ただ、会場にたどりつくのに苦労した人が少なくなかったのは事実でしょう。山田元会長などは、一汗かいたが、おかげでホテルの庭の緑を見られたと言っていました。あとから見れば、思い出のひとつともいえるでしょう。

とにかく、本当にご苦労様でした。一つ付け加えれば、来年の幹事諸君が大変だということです。しかし、こうした競争が城北会の盛り上がりになると思えます。以上、お礼まで。

(3)参加した40年卒の一人も次のように語っています

昨日は楽しい一日をありがとうございました。これまで城北会総会に出席した

ことはないのですが、野田さんの歌もあり、きっと他の学年担当年よりも素晴らしい総会だったのではないかとおもいます。また、同期会や三次会まで用意していただき、本当にありがとうございました。いろいろな方の話を聞いて、自分の世界が少しでも広がっていくのが嬉しいです。

(4) 会場に参加した若者も、ビデオ映像などに注目し、現在の戸山の姿を紹介しようとした実行委員会の企画を受けとめ総会への参加の思い出が残ったものと思います。

(5) 野田さんからは次の FAX がきています

松井様 FAX 有り難うございました。知名度の無い私を opening という光栄なところで歌わせていただくチャンスを与えてくださった委員の皆様我心から感謝しております。

決定にはいろいろあったことでしょうかと思っております。せっかくのご好意(ご厚意)を無にしては行けないとそこそこがんばりました。好評で有ったとお聞きして本当にほっとしています。まさに40年ぶりにお会いできたクラスメイトもたくさんいてすごうれしかったです。委員の皆さんには長い間、本当にお世話になりました。とてもお疲れになったと思います。有り難うございました。

戸山を卒業して、良かった!と今、心から思っています。これからもどうぞよろしくお願ひします。皆様によろしくお伝えください。

3 皆の努力で多くの参加者を得られました

当初の集約段階では心配しました。45年の人たちの心配に40年はただちに反応しませんでした。しかしその後40年なりに最大の努力をし、多くの先輩の協力で約500名の参加見込みを得ることができました。

しかし昭和50年以降の若い卒業生、10年目、15年目などの卒業生をどう結集するかについては多くの宿題を残しました。

4 大成功の原因

(1) 実行委員会全体の一丸となった努力

企画内容の検討準備を行った企画、会場全体の設営・受付等を行った庶務、色々と財政的な努力をした財務、多くの参加者を組織した組織など、すべての力が発揮されて全体の成功があったといえます。

(2) スローガンに合致した企画の内容

野田さんの冒頭の歌が大きな力を発揮し、ビデオ映像がさら新旧の校舎を紹介し、40年代以前の卒業生の姿と今の姿をみごとに示しました。さらにインタビューが内容を盛り上げました。

野田さん、そしてビデオを作成した桜井さんの努力に感謝します。

またビデオの過去の映像は35年の堀江さんの御提供によるものです。

(3) すばらしい総会全体の進行

そして総会全体をリードした準備された司会、照明と映像を駆使した運営、校歌斉唱の伴奏等、総会の進行をになったすべての人の努力の結晶です。

これら総会全体の進行、野田さんのセットの準備などは、中川、松井、佐藤、江森、安藤、小島、内藤、岡田、木全、久野などの企画委員会全体の努力のたまものです。

(4) 城北会事務局、他の学年の大きな協力

45年卒の久野さんが城北会事務局と兼ねて最大限の協力をしてくれ、先輩学年の大きな協力得られました。

(5) 多くの関係者協力

高輪プリンスの武川さん、NAPの茂木さん等の協力も大きいものでした。

5 充実した実行委員会と皆の努力

(1) それぞれの思いをぶつけて議論した努力

この間、実行委員会の「少年、少女の皆様」の学園祭のような努力がありました。高輪プリンスの武川さんも、実行委員会の「おじさん」「おばさん」たちが集まってわいわいしているのに目をまるくしていました。

この1年半家族の冷たい視線を乗り越えて努力された実行委員も多いと思います。

それぞれ思いをぶつけたことが成果につながり、そして充実感をもてたのだと思います。

(2) 実行委員会での交流のつながり

何しろよく討議しました。またよく2次会で語りました。そしてそのことが実行委員どうしの交流を深め、何か得ることができたものと思います。

ある大学の20周年機関誌発行の総括文書に次のような記載があります。

「もやもやとしたイメージでしか無かったものを1つの本に結晶させていくには、様々なエネルギー散逸との格闘が必要でした。しかしそうした苦勞が大きいほど、我々編集メンバーの体験として残るものは大きいに違いありません。これは、きっと作用・反作用の法則のなせる技でしょう。」

この間の実行委員会の中で作り出したものと共通するものがあります。

(3) 実行委員会自体が学年を超えた交流を実現した

実行委員会の中での40年卒と45年卒との交流は、かつてない充実したものと思います。

時により、45年卒をはらはらさせたことについて、実行委員長として深くおわびします。45年卒の力がなければ総会の成功はなかったといえます。

6 多くの反省点

(1) 全体像を早期に確定すること。

(2) 準備すべきことは早期に準備する。

・組織方針企画内容の決定があまりにも直前になりました。

(3) それぞれの分担の関係をよりしっかりさせる。

・招待者組織と企画・組織の分担関係等。

・受付体制・会場内配置・企画と企画担当庶務担当の関係。

(4) 会議運営

・全体会・総括会・学年会等の組み合わせ等を工夫すること。

7 今後考えるべきこと

(1) 若手の組織

懇親総会への結集をどうはかるか、より早い取り組ということだけでなく、城北会の活動をどう身近なものとするか努力する必要があります。

(2) 各学年の継続した活動をどう充実させるかということ

特に40年卒の場合組織体制(幹事会体制)の具体的な計画(クラス会、全体会、懇親企画)をたてる必要があります。

(3) 城北会の活動にどう貢献するかということ

1) 懇親総会への毎年の協力、特に5年後の協力を検討しましょう。

2) 大きな課題ですが城北会活動への参加と提言を相談しましょう。